

5—28—1

1

文政元年戊寅八月

御家督御歛出府諸事日記

大谷新九郎勝意

2 (白紙)

3

御上様御隱居被為遊

但馬様^江

御家督御祝儀出府仕御歛申上候

旧例^茂有之様御用記^ニ見当候間其

用意致し置候様御奉行所沢様より

御内意^ニ付罷帰旧記取調候之所

曾祖父九右衛門祖父并近キハ天明七年

4

□秋亡父九右衛門致出府御歛申上候日記

有之^ニ付即日御奉行様^江罷出先例

有之^ニ付今度新九郎致出府乍恐

御歛申上度之旨内願仕候處、追^而

表向被仰出候□□出府御聞届

可被仰付兎角同役此間新九郎

内願筋も有之事来年出府可然と噂も

仕置候事、是非可被仰付候間心用意致し

置候様被仰聞候事

5

寅八月二日年寄月番遠藤吉郎兵衛より

廻状左之通

今般之御祝儀旧例^ニ付致出府御歛

申上候書付、且又新規御歛出府願之

書付差出候様被仰渡候、此段左様

御心得可被成候、以上

遠藤吉郎兵衛

八月二日

御前触中

6

乍恐口上之覚

一 今般

御祝儀前々より出府仕御歛

申上来候、因茲此度私義

出府仕乍恐御歛奉申上度

奉存候、此段宜敷奉願候、以上

大谷新九郎 判

文政元年寅八月日

築瀬親之助様

沢群右衛門様

7

近江様御儀御隠居御願被為

濟候_ニ附

但馬様_江御家督御城御仕置

万々御先規之通無御相違

8

御老中を以被仰出去ル五日

被為蒙仰候之旨申来候間

其旨相触可申候、以上

八月七日

9

別紙之通被仰出候_ニ付明八日昼後早々

例之通御歛_ニ罷出候様被仰渡候、尤

病氣故障も有之候ハ、私宅迄書付

御廻し可被成候、已上

遠藤吉郎兵衛

八月七日

大谷新九郎方筆頭兒玉兵吉筆末

都合前触共へ

10

一 八月より御歛例之通麻上下_{ニ而}御役所へ罷出候事

御老役様御奉行所御目附并_ニ村河民へも

被出候事

一

右御歛_ニ御町御月番沢様より被仰渡、今般

為御歛鳥府罷出御歛申上度旨先達_而

申達候、付てハ出府御聞届被仰付候義不

用意調次第至出府候様被仰付、即刻衣絹

を□出府御請之旨申上候事、夫より御日付御仮役
熊沢右馬吉様築瀬様山内村瀬御両家老様
以上、五軒相廻相仕舞廻りかけ出府之連中
村市内五舟越現清同様児玉兵吉出浮祝致し候事

11

御隠居様今般之

御祝儀鳥府表^江御歛

申上可然様被

仰渡候、此段左様御心得可被成候

以上

月番

遠藤吉郎兵衛

八月十日

前触中 頭席へ廻ス

12

一 八月九日出勤明後十一日出立鳥府表
罷出候間御添書被仰候様御奉行所
御達申上候事

一 同日為御暇乞罷出候、門数左之通

伊丹 早瀬 村河 日置 伊藤

大村瀬 村瀬 出井 山内 築瀬

河崎 熊沢 澤 米山

右之通相廻候事

13

先触控

覚

一 駕籠 式人

一 分持 老入

一 本馬 老疋

右^者明十一日早朝出立、鳥府表^江

■^(虫損)越候条、宿々人馬無遅滞

14

差出可被申候、以上

大谷新九郎

寅八月十日

宿々問屋衆中

右之先触善左衛門を以町庄屋
村上与右衛門方へ相廻候處村上添書付
差越候_ニ付先触昨日可差出候所
□々失念無抛出府途中
申合遊飛脚を以淀江之宿迄

15

書移差遣候事

一 寅八月十一日明六ツ時出立道々類家へ
立寄漸御来屋宿_{ニ而}昼支度
赤崎宿へ薄暮着羽戸屋利右衛門方
止宿明ル十二日早々出立於橋津昼支度
同夕五ツ時青屋着、則庄屋邸_江止宿
其翌十三日□□六ツ時出立於中の茶
昼支配同日昼八ツ時鳥府表到着

16

鋳物師橋根_{ニ而}駕籠より出御下屋鋪参
到着迎申上候門数、則御添書九郎右衛門様御留主_{ニ而}
小頭平内殿へ相渡置候
牛尾九郎右衛門様 馬渕平太夫様
臼田治右衛門様 古谷清一郎様
太田十五兵衛様
夫より中屋鋪参
田中藤右衛門様 高坂幾右衛門様
御下御屋鋪御逗留被成候

17

山内様へ参

右御屋鋪様方至着御達申上仕舞
金市屋利兵衛方落付寛々及
休息事

一 其翌十四日早朝より音物取調置御除ケ日_ニ付
昼八ツ時御役懸_江音物差出事控別記も有之
一 覧眼目此所_ニ書表置事
牛尾九郎右衛門様_江 御見習役牛尾新八郎様へ
一 かゝ納戸嶋 忝反 一 青屋もめん忝反
一 鰯 五本 一 鰹節 忝連

一 たはこ 式玉

18

御奉行

太田十五兵衛様へ

浜木綿 式反

鯉節 壱連

御用達

臼田治右衛門様

繰わた 式百匁

鯉節 一連

御目附

馬淵平大夫様

繰わた 百五十匁

鰯 式本

御用達

古谷清一郎様

繰わた 式百匁

鯉節 壱連

御用達

田中藤右衛門様

繰わた 式百匁

鯉節 一連

19

米子表より御出府山内様へ

南鐐二片引替

外ニ酢一徳利

車海老少々差出候事

右之通御役懸勤門音物

一 十四日晚刻七ツ時出勤太田様新八郎様

平太夫様懸御目申候事、何角先規之通

宜敷御仕廻被仰付候様願込置事、山内様

罷出候処御酒被遣寛々御窺申上罷帰候事

20 (白紙)

21

大谷新九郎殿 太田十五兵衛

ノ

今般之就御祝義

明十六日九ツ時

御目見被

仰付以後御料理

22

被遣候間御出

可有之候、以上

八月十五日

右之御状到来拝見、即刻御使之衆_江
懸御目御用状之趣奉畏候、後刻
御請可申上之旨御返答申上置事

23

御請罷出候門数左之通

牛尾九郎右衛門様

山内清藏様

太田十五兵衛様

右御三軒様ニ相渡候事

一 八月十六日朝鉤屋松井徳右衛門殿相頼
御上屋鋪より拝借内たんハ宿主より盤台
定紋付借出し鋳立人足かんはんをきせ
四ツ時ニ

24

御上屋鋪為差出、則家亭利兵衛辛領ニ
付ケ松井氏迄引渡させ置事

献上 鯉節廿入壺折

付紙二枚共ニ 大谷新九郎

一 十六日昼九ツ上刻柳藏惣門_{ニ而}五人揃
御上家敷表御門より通御裏玄関へ

上り横口より這入御玄関御上番片山武右衛門殿

懸御目今般御祝儀就為御歛出府仕候處今日ハ

御上様御目見被仰付候旨難有仕合奉存候

出府面々不調法者初_而之義故一入何角宜敷

御引舞被遣候様と及挨拶置事

25

夫より松井案内候_而御勘定場御玄関へ

参り致休息罷在候内御座鋪拝見仕候様

御沙汰ニ付即刻御座敷へ罷通拝見仕候事

其内御老役様御三人共御出勤、早御目見

始候旨太田様より被仰、御弓之間待合罷在候処

早や御目見被仰付候間、近く罷出候様被仰

大広間参り居候処

御前御着座之趣牛尾新八郎様御内縁より
御詰被成

御目見へ相始候事、最初米府町中惣代

26

村川市兵衛夫より独礼之御目見ニ相成候

一第壹番村川市兵衛第二番大谷新九郎

献上御取次水原三郎四郎様より大谷新九郎へ

御披露被成候處、牛尾新八郎様より

御目見被仰付難有仕合ニ奉存候

御披露被為成下新九郎御目見相済

御次間参り太田様首尾能御目見

相勤候旨難有と及御挨拶、于時牛尾

新八郎様御目見席より御次之間へ

27

御戻被成候ニ付御蔭様首尾能御目見

難有仕合と御挨拶申上候、水原様も御取次

相済御詰間へ御下被成候ニ付同様及

御挨拶置事、夫々順々内田船越

現銀屋御目見相済御弓之間を通

御勘定迄引致休息罷在候処松井被参

御料理可被仰付候間御座へ参候様御沙汰ニ付

即刻罷越弓鉄之間之上間御屏風^{ニ而}

四畳敷被成座着次第

村川市兵衛大谷新九郎兩人御弓之間内田五左衛門

28

船越太郎右衛門現銀屋清兵衛右三人暫有テ

御坊主衆御配膳御通御引茶、御裏判

太田十五兵衛様為御挨拶御老役

九郎右衛門様清藏様新八郎様御差揃

御挨拶被成候、兩人御弓間引、右御請

申上候処寛々と被仰御引取被成候事

尚又御用達田中古谷田御三人御挨拶右同様之事

御酒頂戴之節十五兵衛御始被成順々

御盃頂戴仕候事、同人様度々

御挨拶御出被成候事、為御饗応片山

29

武右衛門殿両度森尾嘉平殿松井氏
互詰之事御料理昼八ツ時より暮六ツ下刻
終ル御盃太田様御納盃被成候事

御献立覚

先付う□き

魚

大根

さゝゐ

ふくさ 大□まみ

皿 岩たけ

御汁 椎茸

生姜

小菜

青み

猪口 御香物

御飯

色々

30

向詰 御焼物鯛

大蒲ほこ二切

御酒

御盃

第一番 折入

生麴

梅干

熨斗鰯

31

第二番 小皿

鯛畳

敷酢味噌

海そうめん

牒かた梨子

小海老

御硯蓋

焼しき

焼かまほこ

栗茸

ぶとふ

厚焼玉子

32

第四番 南京

大皿

卸生姜

焼鱈

かけ汁

第五番

御吸物 ふくさ

鱸

御菓子 三ツ

御薄茶 但し御茶名別木

33

右御料理相済御式台横口より御玄関_江

通り片山武右衛門殿へ御料理御挨拶

申上、夫より御勘定場へ参り御詰之衆中

御一統へ御挨拶申、御裏門へ出御表門へ

廻り御裏玄関より揚り例之横口より通り

片山氏へ今日御目見其上御料理等

万々先規之通被仰付冥加至極難有

34

仕合此段宜敷奉願と申上

御館下り申候事、夫より新屋敷

高坂中屋敷田中御下御屋敷山内

御下屋敷牛尾大田臼田古谷右

御屋敷かたへ今日之御礼御挨拶

申上罷帰候事、附り松井氏段々

懇配ニ付乍立及挨拶参候事

35

一 同夕首尾能相済出府之連中

叶市屋_ニおゐて賑々敷らつこふ

興行御役者藤井清五郎家亭

利兵衛大鼓小鼓_ニ面白一段酒

大はつみく夜七ツ時_ニ何れも

しゆくすい目出度相済

36 (白紙)

37 (白紙)

38

一 八月十九日朝御隠居様今般御祝義申上候様

御沙汰_ニ付即刻其用意致し御勘場迄音物

為持遣、則松井徳右衛門殿引渡置、夫より

米子出府之面々差揃知頭海道通表
御門通御裏玄関横口御式台上之間
御番衆乍恐

御隠居様^江今般之御祝儀御歛申上度

御帳元宜敷と及挨拶御上番片山武右衛門様

39

御当番之事、夫御勘定場御玄関

相詰罷在候処御元^江太田十五兵衛様

良有テ御出、今般御隠居様^江献上之品

遂披露候処至^而御満悦被相成候旨

被仰聞今日も御苦勞罷成御蔭を以

献上相仕舞難有仕合と申上、其俚

宿元^江罷帰候事

40

一

一

八月廿一日松井徳右衛門殿より昼四ツ時

頂戴之品有之候、御勘定所^江罷出候様

御沙汰御座候旨手紙を以被申越候故

出府五人差揃御勘定所へ罷出

候之處へ良有太田十五兵衛様御越被成

今般就御祝義先規之通御上下

御折紙^{ニ而}被遣候、追^而御引替可

41

被下之義被仰渡難有頂戴、即刻

持参上下^{ニ而}御玄関横口より這入今般

御祝義^ニ付御上下拝領被仰付

難有仕合奉存旨及挨拶御帳元

宜敷と申上置候事、夫より御役所廻

御用達御目附御老役所持御上下

拝領之為御礼罷出候旨申出罷帰候事

42

一

八月廿日夕沢群右衛門様綿一^(一丁)許^ニ付米府

及騒動御出被成候由承之薄暮之頃

仙臺川向茶屋迄御迎^ニ罷出候事

付たり夜五ツ時過御こし被成候事

御召連出府之面々左之通

庄屋助左衛門 目代 三好屋次兵衛

佐々木屋平八

仙臺屋又次郎

諸問屋惣代米屋半左衛門

43

一 八月廿日昼八ツ時香川次郎右衛門様御宅_江

罷出初_而得拝顔寛々御窺何角御深切_ニ

被仰聞候事

但 香川氏之進物嶋縮面式反

大鯛式枚祝と申酒式升

一 八月十九日湯浅御氏_ニ参候、寛々得拝顔候事

一 同廿一日草野長助湯浅氏_江御出浮

昼九ツ時より晚七ツ時迄

44

一 八月廿一日澤様御到着御挨拶之ため

出府仕候處、早御上屋敷御出府躰_而御物見

御門口御出浮_{ニ而}鳥渡御挨拶申上其俣

御物見へ参り馬渕丈助様へ懸御目四方山

御願申上罷帰かけ田中藤右衛門へ任□□共

御留主_ニ付不得拝顔罷帰候事

一 八月廿一日夕船越太郎右衛門沢様へ御暇乞_ニ

罷出候處大谷新九郎御用向有之候間

罷出候様折角□□番度宜敷□間

45

新九郎_江申通呉候様御伝言之旨申聞候_ニ付

即刻罷出候處、村川市兵衛参り居

沢様被仰候_{ニ者}兩人共御並様方_江

繼目御目見奉願、則屋敷様方へ御通達

可被遣之所拙者態出府致候程之米府

騒動中上下_{ニ而}西風東風致し候義不本意

直訴穩相成候迄_者用捨可然内願候

之義幾重と申立可然何様上下着用

之義丈ハ此砌用捨可然被仰至極御尤

46

御義私共夜前尊前様御越御様子有之
奉恐入候段右御並様方御通達被遣候様
御催足申上候義も差控候故幾重_ニも
右之許損_ニ相成候迄差控御吉左右
可奉待候所申上罷帰候事
一 八月廿一日夕、明廿二日朝船越限清
出立_ニ付松井氏も暇乞_ニ見へ酒宴
相催、其翌廿三日太郎右衛門清兵衛鳥府
出立米府罷帰候事、私内五振舞之事

47

一 九月四日沢公_江窺参候處、御同人より被仰候旨
兩人内願之義香川治郎右衛門より森佐左衛門方_江
御隠居様より御頼被成候ハ、出来宜敷趣相□
申候趣昨日内評および則御隠居様_江相窺
申上かけ候処以之外之御様子何様綿一許当時
不輕御心配中尚又其許達願筋彼是
相重公儀手之思わく如何敷候条、何様時節
可在之候間先ッ帰国重_而時を得御催足
申上可然と之御意内、尤牛尾九郎右衛門より
此分其許達_江可申談筈、何様与得

48

相考先帰国致可然と種々入割候も
被仰聞候得共其筋理_ニ不相当私より
御返答_ニ者何様私共も当春已来
種々心配仕候内願之義不計綿一許
致出来如仰折悪敷相成候義_者
勿論奉承知候、尤綿一許之未如何共
難決候得_者若御望之通穩_ニ其筋
相立候得ハ元トの白地_ニ相成、若思召之通
御和談出来不申節ハ是ハ大變候間

49

私共内願所_ニ而_者無之幾重_ニも帰国
可仕何様今暫く得折若穩_ニ相成候得ハ
其節御苦勞_ニも可相成と奉存候、色々
申上見申候得共やたら御差返被成度
御仕向之御口振り因茲何様引取

□愚考其上御返答可申上と受流
其座引取宿宅_江罷帰候、種々愚考
□□申之所昨朝迄幾重_ニ承不□無
油断致出来候様被仰候、沢公今日迄
俄_ニ風之替候義正敷脇より水を指

50

申候事顯然背越場と觀念、即夕
山内氏へ参次第具_ニ御物語申上候處
銘々共申上方尤_ニ御聞取被成何様
綿一許今明日中_ニ善悪差別も
付不申候間引籠戸外怠様子をも
探見可申と被仰候_ニ付随御意に
罷在候事

51

一 九月八日於藤井清兵衛宅香川様_江
引合呉可申旨清兵衛添心_ニ預忝其
用意魚町忠次郎被詔置候事
一 九月七日夕五ツ時米や半左衛門参申聞候ハ
晩方御晰申候通綿一許御和談調ひ
今夕御用意次第八ツ時出立候_{ニ而}沢様_ニも
御帰国村川宮本其外目代私迄も御召出
御帰之趣只今蒙仰候と米半晰_ニ付
即刻五左衛門同道_{ニ而}沢様_江御暇乞と□□

52

懸候處鹿の海道_{ニ而}群右衛門様出云
乍立被仰候_者右一許も先ハ事済、只今
暇乞_ニ参後刻帰国可仕候、扱又
右御隠居様へ献上之品太田十五兵衛_江
申談相渡し置候前紙被差出候
趣意書ハ牛尾方へ相廻置候各残し置
罷帰候義不本意候得共無是非仕合と
御懇_ニ被仰御深切之段忝と立別、夫より
御物見へ参群右衛門御帰を相待候所
彼是九ツ下刻御戻被成候、何角有□懸

53

御物語申上候處随分御□□先日御様子と

相替随分出精急々首尾能致し
罷帰候様被仰、尚私下地より頂戴之
御上下折紙御引替羽織願之義
先日牛尾様御沙汰被成候由随分尤
之義幾重_ニも太田氏へ願付候様御添心
尚寺院方仕_口之義も新九郎内々
取計至極尤幾重_ニも跡_ニ而牛尾
田中杯と内談可然取計様御許容
快然荷物取片付手伝等致し七日夕

54

八ツ時下刻御上屋敷御物見出立_ニ而川
下大森入口_ニ而御暇乞仕罷帰候之所
村川市兵衛も出立旅宿へ立寄候_而
暇乞米半出立彼是致し候内早
顯功寺明七ツ時を打頃寢所_江
這入暫く内五と噺合休_ミ申事

55

文政改元寅八月十一日米府出立、同十三日鳥府表_江
到着、十六日御目見即日御料理万々先格之通
又十九日御隠居様_江為御歛と御式台_江罷出夫より
又廿一日於御勘定所_ニ太田十五兵衛より先例之通御上下
御目録_ニ被仰付是_ニ而今般但馬様御家督御歛之
御式次第相済、右_ニ付御並様_江先規之通継目
御目見奉願之旨牛尾山内御両家_江下地も
粗御沙汰申上置過十八日改_而御願申上候處御
旧記御取調可被成之旨御許容被遣候事、然ル處
米子表綿一許_ニ付惣町及騒動かけ申由_ニ而

56

御町奉行沢群右衛門様急御出府_ニ而諸御用
差支御無頓着之事、其上過ル廿二日沢様
被召罷出候處惣町一統之騒動_ニ付
御上_ニも御心配中其半へ御並様方
継目御礼御願上下_ニ而西風東風被致候義
不本意事、此一許事へ穩_ニ相成候迄_者
用捨可有之候と之御意_ニ付素り左様_ニ
相心得罷在候段、此中へ御催足も不申上旨

御答申上罷帰候事 但 親政太郎天明五年巳十一月 廿日より御目見相始事

右之趣^{ニ而}御並様方罷出候義暫時

57

相見合罷在候之處右綿一許も九月上旬

穩^ニ相成、則沢氏九月七日鳥府御出立

村川市兵衛宮本助右衛門始其外目代問屋共

御召連御帰国之事、私義^者外^ニ

願事も有之^ニ付鳥府表^ニ滞留、夫より

沢公御帰国之上惣町穩^ニ相治候旨御飛脚

到来承候^ニ付能折と相見合先達^而

御願込申上置候

御十家様へ継目之御目見奉願度之旨

58

九月十九日^ニ牛尾御父子様^江御沙汰申上候処

随分罷出可然之御様子承之、左候得^者

御並様方之御老役様へ迄例之通以御手紙

御通達被成下候様願込候處御館入

申上候御屋敷御名前書付差出候様被仰候付

右之通相認差出候事

□ 小八郎様

豊前様

59

舍人様

筑前様

藤太郎様

大蔵様

駿河様

長門様

60

右之通書附相認可差出候處、折節

風邪仕出勤難相成^ニ付松井徳右衛門殿

方より相頼遣置事、漸廿三朝

新九郎出勤かけ牛尾新八郎様罷出

懸御目御並座様御目見之義先日

御聴届被仰付難有奉存候、則今日より

皆御屋鋪御老役様共^江顔出し候間
例之通御文通被成下候様及御挨拶
候處御承知被遣候事

61

寅九月廿三日内端午町豊前様御下屋敷
坂井六兵衛様御方参候處御留主^{ニ而}不懸御目
夫より藤太郎様御下屋敷岩崎常右衛門様へ参候處
是も御留主夫より大藏様御家臣大楠猪右衛門様
対面何角具^ニ御物語申置、夫より犬塚文太左衛門様
参候處御留主、夫より駿河様御家臣岡村
傳五右衛門様参候御灸治^{ニ而}不懸御目、夫より
長門様御家臣東原公参候處御留主
夫より井上仁右衛門様参候處是も同様、廿三日是切休

62

一 九月廿四日早朝田井瀬中様参懸御目
何角及挨拶候事、夫より古田参候處取交
^{ニ而}重右衛門於上屋敷御面談被成度之^断
候事、夫津田様御下屋敷小川弥助様
参候處髪月代御取懸重^而参吳候様
御挨拶候事、夫瓦町乾様之
御下屋敷□休太兵衛様懸御目具^ニ及
挨拶候并林新六様参候處御留主
申置罷帰

付たり田中湯浅并鷺見

立寄罷帰申事

63

一 九月廿五日早朝出勤牛尾新八郎様
懸御目内願之義厚及催足何も御承知
被遣候事并御十家様御文通御せかミ
申上候處、今日御認御廻可遣候事
九月廿五日坂井六兵衛様懸御目何角具^ニ
御窺申上置事并^ニ豊前様より御直筆
御返翰及中絶迷惑仕候段、何卒先規
之通明春より御直答被遣候様厚御評義

64

申上候處坂井様至極尤筋何様御沙汰申上

何卒其許望通致進度ものと被仰、則
御直筆御書暫時御預被成度如何哉と
被仰候_ニ付易御事_ニ御座候、何卒旦那様も
入御覽被遣、何卒□之通御直書被遣候様
幾重奉願上申上置候事

- 一 同日犬塚文太左衛門様_ニも懸御目
藤太郎様御前宜敷と申上候処坂井様御同断
之御答_ニ而_ニ則御先代民部様御直書
御預被成候事

65

- 一 同日長門様御家臣東原氏懸御目
具及物語候処、且又尤之義何様及
評義と御返事

- 一 同日駿河様御家臣岡村傳五右衛門様へ
懸御目御目見申上候処駿河様御病中
若旦那様虚疾_ニ而_ニ御引籠所詮急_ニ御目見
被仰付程も無覺束之由相嘶、先年亡父
罷出候節乾様御病氣_ニ付御式台_江迄

66

罷出縫目御吹聴申上候例御座候、此段御胆持
被遣候様申上置事并_ニ御直書中絶仕候
何卒先規之通年頭之節御直書を以

御返翰被仰付候様御一統様奉願置候間
御序之刻御同役様方宜敷御評義候様

先規之通_ニ相成候様内願仕置罷帰申候事

- 一 同日岩崎氏参候処夕飯後_ニ参候様

取次を以被仰聞付候事

- 一 同日井上へ参候處今日も御留主_ニ而

67

不懸御目罷帰候事

68

- 一 九月廿六日牛尾新八郎様より御用向有之間
罷出候様呼参折節岩崎様参候留主_ニ而
即刻罷帰直様牛尾様罷出候処新八郎様
前紙之通申来候条可得其意旨被仰渡
奉畏御請申上罷帰かけ田井庄御氏

井上御氏御受ニ罷出候事

田井庄瀬中

牛尾新八郎様

井上仁兵衛

古田吉左衛門

御手紙致拝見候、弥御堅固被成御勤珍重

69

奉存候、然_者米子町大谷新九郎儀

此度初_而致出府候ニ付旧格之通此御方へ

罷出申度奉願候由御紙面之趣承知

致し其段申上候処、例之通可被仰付候間

明後廿八日五ツ時此御屋敷迄罷出候様

被仰付可被下候、右御報為可得御意如此

御座候、以上

九月廿六日

70

猶以明後廿八日御登

城前ニ御目見可被仰付候間

其御都合ニ御取計可被成候、以上

牛尾新八郎様 岩崎常右衛門

御手紙致拝見候、愈御堅固被成御勤

珍重奉存候、然_者被仰下候御紙面之趣

71

致承知早速申上候処来ル朔日御登

城前御目見被仰付候御様子ニ付

左様御承知可被下候、尤其節前日被

得御意候間、是又左様御承知可被下候

右御報為可得御意如此御座候、已上

九月廿六日

72

牛尾新八郎様 東原七郎兵衛

御手紙致拝見候、弥御堅固被成御勤

珍重奉存候、然_者米子町大谷新九郎儀

此度初_而致出府候ニ付旧例之通此御方_江

罷出申度段御紙面之趣致承知候、右

御報如此御座候、以上

九月廿六日

73

新八郎様 七郎兵衛

御別紙致拝見候、然^者右新九郎儀

御屋敷^江罷出候節旧例之通御目見之儀

此度も被仰付候様貴様方より私迄御内々

被仰下御紙面之趣致承知其段申上候処

明日^{ニ而}も御目見可被仰付候得共此間より

御風邪^{ニ而}御勝不被成^ニ付両三日御見合被成

候得^者御髪月代^茂可被成候間来月

朔日朝飯後早々罷出候様被仰聞可被下候

74

其内一両日之内^ニも罷帰り候様子^ニ御座候得ハ

重^而罷出候節御目見被仰付候間

とかく宜御取計被仰聞可被下奉頼候

右御報迄如斯御座候、以上

九月廿六日

一 寅九月廿八日朝六ツ時

御上様御式台横口より這入御番衆^江懸御目私義

今日小八郎様并^ニ乾様^江繼目御目見被仰付

75

罷出候、尤御添者御座候、夜前牛尾様御窺

申上候處御使者^者今日申談置候得共其御名前

相知れ不申^ニ付今朝御式台へ参り御尋申上候様

被仰候殿方御越被成下候哉と御上番衆^江尋込候処

只今出勤申様申遣置候、坂田半大夫参候筈と

被仰候^ニ付新九郎より申上候^者御家名相知不申故昨晚

御挨拶^ニも罷出不申候、左様候ハ、御屋敷ハ何方候哉

相尋候処、早や追付半大夫可参候との御返事候へ共

旧例も有之義鳥渡可罷越と申上候処、夫^者御念之

入申事、左も候ハ、新屋敷門内三軒との事^ニ付

即刻坂田半大夫殿御宅参頼もふ^与候處

半大夫被出今日小八郎様筑前様御目見仕候^ニ付

76

貴所様御添者御勤被成候趣只今承之為御挨拶

罷出候儀申込候処入御念委細承知、早
御式台迄可罷出との事候ニ付、又新九郎御式台
参り相待居候處、半大夫被参御上番衆^江
小八郎様計と承之居申、只今大谷より噂^{二而ハ}
筑前様へも御目見之由左候得^者小八郎様へ参、暫
引取小八郎様御目見相濟候上大谷氏
乾様被参候節一寸其沙汰承り、私又可出浮
哉との相談有之^ニ付新九郎より御発先例ハ
御目見相濟候迄ハ其御屋敷御待被遣候御例^ニ
御座候、既親政太郎三十四年已前天明五
已十一月廿日志摩様左門様千葉之助様

77

御三軒相勤罷帰かけ
平右衛門御不例中ニ付御式台へ迄罷出候義ハ
御添使者無之御例ニ付乾様御屋敷前^{ニ而}
御使者へ御暇乞仕候趣旧記相顕有之候
申上候処其段御許容被遣、則御使者御口上之義
如何との事^ニ候処、御番衆上番^江被相尋
可然旨^{ニ而}半大夫殿上番之御給人
上村恵兵衛様^ニ相見奥之間^{ニ而}御対談
即刻坂田氏御式台被戻、然^者可罷越
被仰新九郎御跡^ニ付表御門より出、夫より
志摩様御館表御門より這入

78

御式台前切石之少し脇を通、則御式台右脇
北之方より鏡板へ揚、御式台御番衆^江御使者
御口上相濟新九郎申上候義ハ今般私義
継目之御目見可被仰付候段難有仕合
万事宜敷御引舞被成可被下之旨
及御挨拶事 付たり 御使坂田半大夫殿
御式台出柱の脇口より御這被成候
新九郎義旧例^ニ付差向より
揚申事、尤おふへいたし候へ共
古例之義故無遠慮差向より
揚申事

右之通御使者口上并^ニ新九郎口達之義相濟

79

則御上番衆

小八郎様へ被仰上候旨_{ニ而}御奥之間被這

暫有右御上番被戻東風らへ御通りと

御添使者坂田氏御弓鉄之間之内縁□所

横六畳式之間御同道、夫より新九郎前被出あれ_江

御通と御挨拶坂田氏ハ御弓鉄之間床を向_ニシテ

被戻新九郎ハ北より南向_ニ成り居申事、暫有テ

御式台下番御徒上と相見テ一刀帯佩_{ニ而}煙草粉

御持出御添者之前被戻候事、又新九郎前_ニハ御同人

御持出有之、又御せん茶同様之事

80

小八郎様御目見九月廿八日朝四ツ上刻

御披露田井庄瀬中折持出_者御上番衆

筑前様御目見同月同日四ツ時下刻

御披露瀧市右衛門跡御名前失念

折御持出し萩田何兵衛様、則当日御上番衆也

寅九月廿八日

小八郎様乾筑前様御両家首尾能

御目見被仰付難有、即刻御老役様方

為御挨拶罷越御下屋敷牛尾太田

御両家并_ニ御添使坂田半大夫殿方へも

立寄申事

81

鵜殿藤太郎様寅十月朔日朝五ツ時

御目見首尾相勤候事、御披露岩崎常右衛門様

献上鯉節折御持参御披露被下候_者浅越源左衛門様

尤裏当之御長臣松田御氏御参府中_ニ付

御挨拶御出被成候、則御目見之節岩崎御氏よりも御上席

御目見相済、御玄関裏通上之間八畳是_ニ

御使其次十式畳間新九郎相詰然ル處岩崎様

御出御使者被仰候_者新九郎御肴献上申_ニ付今日

御酒頂戴被仰付候条御待□□可有之候、尤

御使者御酒差出□□無之何様御引取候哉

82

又_者直_ニ外御屋敷御同伴候哉、御使者ハ是より舍人様

長門様へ同道仕候様御沙汰ニ付、然^者今暫く御待と
御挨拶^{ニ而}御退被成良暫有テ御吸物
御盃御使者之間へ出、次ニ新九郎^江御吸物出
銚子盃御徒衆御持参御使者へ^者御上番衆
御老人御対座之事、新九郎へ^者岩崎公
御出御盃御始新九郎へ被下、御返盃申上候處
御押被成候處折節松田様御挨拶^ニ御出被成候
右御盃頂戴岩崎様へ御返盃岩崎様浅越公
御廻被成岩崎公より新九郎へ被遣頂戴仕、又
御返盃申上候、追々及数こん岩崎様御納盃

83

被成候事、御使者衣笠六之助殿より
御饗応方首尾共御上番衆而已^{ニ而}済
尤岩崎様よりも御挨拶御座候事、是も同刻^ニ
御盃相済候事、即刻岩崎常右衛門様へ
存^茂寄不申、今日^者御盃頂戴種々御馳走
被仰付難有仕合と厚御礼申上、夫より
御勘定所と相見へ脇口奥之間^ニ松田公
浅越様杯御烈座被成候所鳥府立寄
御目見へ仰付、其上存知懸も無之御酒
頂戴其上種々御饗応被仰付冥加
至極難有候得共御序^ニ御前宜敷と御礼
申上夫より御式台罷出御目見首尾

84

能相勤其上御饗応被仰付難有仕合と
御上番御下番へも御挨拶申上御式台を
下り御門外へ出、又御式台へ参只今ハ
種々御馳走被仰付冥加至極難有
仕合御序之刻

御前宜敷御下番衆へ^者御帳前宜敷と
及御挨拶御式台を下御門外^{ニ而}
御添使者衣笠氏と御一緒^ニ相成、夫より
津田様御屋敷へ罷越御式台へ
揚り御番衆^江御添御口上相済新九郎よりも
今日継目為御礼罷出候處

85

御隠居様御目見可被仰付候旨夜前

南條次右衛門殿より被仰下難有罷出候旨

尚兼_而不調法者万事宜敷御引舞

被下候様御挨拶申上候处、即刻大奥_江

可被仰上之处良有御上番衆御出御使者

右之趣申上候处被入御念御添使者後刻

御隠居様御逢可被遊候間御引取可被成との

御口上_{ニ而}衣笠氏御館_{ニ而}御待可申候間

_{ニ而}津田様御式台を御下被成候事

跡_{ニ而}御上番被仰候者御隠居様

御目見可被仰付候間新役所へ可被参と

86

被仰候、新御役所不案内候間御案内被下候様

申上候處、則御小人御添被成同道いたし

御裏台所より這入彼新御役所へ通

南條氏_江対面暫時相待候内

御隠居舍人様御逢可被成候間御座敷へ

参候様被仰聞、即刻罷出候事

一 津田信濃様御在江戸_ニ付御式台迄

罷出繼目御礼可申上候所、小川様思召_{ニ而}

御当代様格別御由諸有之候御隠居御事故

何卒御目見可被仰候由先日被仰聞候_ニ付

87

難有仕合と申上置候处昨夕南條氏より

御目見可被仰下之旨被申越、今日一寸

出かけ_ニ南條氏へ御請_ニ参置候事

又前記之様子_{ニ而}則御奥御座_(杵)_{ニ而}

津田之御隠居

舍人様御目見仕候刻限十月朔日四ツ下刻

九ツ時之頃_ニも可有之事

付たり 御取次奥田御氏御用達御勤之由

献上取次御目見へ披露御老人_{ニ而}

相済申事

88

右之通御目見相済新御屋敷へ戻候处

南條氏被申候^{ニ而}御料理可被仰付之所
旦那様御在江戸殊御檢約申^ニ付
其段御断宜敷私より申達様御意被成候旨
御挨拶被為入御念御意難有頂戴仕候
尚又宜敷被執成奉願と申、夫より又御式
台へ参御番衆
御隠居様御目見被仰付難有仕合御序
宜敷御挨拶申御式台を下御門外へ
出候事、夫より

89

御上屋敷戻候、御添使者衣笠六之助殿
御同道長門様御屋敷へ同日九ツ上刻
御式台へ参候事

付たり 長門様御登城被遊未御帰館

不被遊良暫相待居候之所九ツ半時

御帰被遊御使者御玄関之上之間

先刻より御通被成御待候事、御門外

より御帰と方言^{ニ而}触込申^ニ付新九郎

矢張此間^ニ罷在可然哉と申上候處

過分不苦と御先番衆被仰御玄関

之隅^ニ平伏致し罷在候事

90

長門様 十月朔日昼九ツ半^ニ

御目見被仰付候事

御取次御上番衆御土官之由

承之御披露ハ束原七郎兵衛様

右之通寅十月朔日

鵜殿様津田舍人荒尾長門様

御三軒首尾能御目見被

仰付難有、即刻御老役衆御方^江

為御礼御挨拶上下之尽^{ニ而}不殘相廻

尚御下屋敷牛尾太田御両家并^ニ

91

衣笠六之進殿方へも参候事

寅十月三日

和田豊前様四ツ時御目見被仰付
首尾能相勤申事、御取次吉田
八郎右衛門様と承之事、御披露_者御家臣
坂井権平様被成下候事、御添使者
松崎栄藏殿被相勤候事

92

池田大藏様 吉田八郎右衛門
御土官杵山何兵衛様
鯉折差出宜敷御披露□□
御亭寧御櫨_ニ被仰伝候事
荒尾駿河守 下石忠左衛門懸御目
鯉折差出宜敷御披露
と申上候事、右同断

右御両家御不例中_ニ付急_ニ御目見江
難被仰付何様御目見被仰付候□□シテ
御式台迄罷出候ハ、御逢被遊候同様_ニ
御家臣衆より先達_而牛尾新八郎様方迄
御返事申来_ニ付今日乍序

93

御両家様罷出首尾相勤申上候事
尤御式台_{ニ而}相済_ニ付御使者_者無之
豊前様御目見相済
御上屋敷御裏門前_{ニ而}松崎氏_{ニハ}
別途新九郎老人御両家へ参候事
寅九月廿八日より御目見初十月朔日
同月三日迄
右御八軒様新九郎家督継目

94

御目見相勤首尾能相済事
付たり 勝意未藤之丞と申候節、当
御隠居成尚様へ部屋住嫡子之
節御目見仕候、廿一年已前
午極月廿一日也家督之継目之
御上様御目見ハ一廻跡十三年
已前寅十二月六日御目見被仰付
則家督継目之御目見先達_而

相済居候事、此度^者

御上様御家督御歛之文化元年寅八月十六日九ツ時也
御目見仕候事、勝意是迄

95

御上屋敷之御目見及三度事

右之通首尾能相済候事

但御添使坂田氏へ式匁肴料也

衣笠六之進殿門数多ニ付三匁

松崎氏式匁^ノ七匁入用

御八軒様献上鰹節廿入一折宛

折代三匁五分宛入用

鵜殿様より格別ニ御酒等頂戴ニ付岩崎氏大鯛一枚
為御礼差出候事、代五匁

96

千秋万歳目出度

書頭畢 勝意

鳥府止宿鑄師町

叶市屋利兵衛也

同人□

御目見度每袴^{ニ而}

97

同道別^而

鵜殿様^{ニ而}懸引至極

弁理能重^而子孫

出府御目見之節宿主

召連可罷出事

98 (白紙)

99 (白紙)

100 (白紙)

101 (白紙)

102 (白紙)

28—2

1

(表紙)

文政元年寅八月吉

- 鳥府届ケ物控
大谷
- 2 (白紙)
- 3 状壺通 用田屋
佐七より
- すゝと壺ツ 鳥取
和田屋
平兵衛行
- 4 御祈禱之札箱 壺ツ
索麵 三包
吉祥院様より
- 一 状 箱式ツ
一 状 式通
一 札 三匁
- 右之通目録有ル
- 5 一 状箱壺ツ
林善太兵衛様より
- 一 状 四通
一 紙袋入壺ツ
- 6 末次彦左衛門様より
草野様行
- 一 状箱壺ツ
一 鮑袋壺ツ
一 状箱壺ツ 早瀬様へ行
一 すゝと壺ツ
- 7 村瀬数之助様より
一 紙袋入式包
一 状 壺通 田代御隠居様より
外ニ 林勘右衛門様へ行
書通壺通はさみ箱入置

- 8
一 肴籠壺ツ 岩見屋
新左衛門
状箱壺ツ 山内様へ
- 一 肴すと壺ツ 安木屋
佐助
- 一 状箱式ツ 総泉寺より
- 一 状 四通
- 9
一 状箱五ツ 宮本助右衛門より
外ニ札拾匁
鯉節四袋
- 一 書通式通 早瀬様より
- 一 すと壺ツ
- 10
一 紙袋 壺ツ 田代本家様より
山田様へ行
外ニ
- 書通壺ツ 林勘右衛門様行
- 11
中井様分
- 一 書通目六何角此所へ具□
■
- 外ニ肴すと三ツ有
- 12 (白紙)